

氏名	山下安彦
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3762号
学位授与の日付	平成14年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Carbohydrates expressed on <i>Aspergillus fumigatus</i> induce <i>in vivo</i> allergic Th2-type response (<i>Aspergillus fumigatus</i> 構成糖鎖による <i>in vivo</i> Th2型アレルギー感作の誘導)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 岩月 啓氏 教授 小熊 恵二

学位論文内容の要旨

近年糖タンパク抗原を構成する糖鎖がさまざまな免疫応答の成立および維持に関与することが明らかにされつつある。今回我々は *Aspergillus fumigatus* (Af)抗原を構成する糖鎖が Th2 型アレルギー感作誘導に関与しているのか、マウスモデルを用いて検討した。糖鎖をペリオデートにて破壊した Af 抗原 (ペリオデート処理 Af 抗原) にて点鼻感作されたマウスの血清総 IgE 量、Af 特異的 IgE 抗体価、Af 特異的 IgG1 抗体価および鼻粘膜内好酸球浸潤は、天然型 Af 抗原およびバッファークントロールであるモック処理 Af 抗原を点鼻感作した場合と比較して有意に低下していた。一方 Inhibition ELISA ではペリオデート処理 Af 抗原は天然型 Af 抗原およびモック処理 Af 抗原と同等に IgE 抗体とビオチン化 Af 抗原との結合を阻害した。すなわち Af を構成する糖鎖は IgE 産生には促進的に関与するもののその結果産生された特異的 IgE のエピトープになる可能性は低いことが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、アスペルギルス真菌に対するアレルギー反応をアスペルギルス抗原を用いたマウス点鼻感作モデルを作成することにより解析したものである。この結果、IgE および IgG1 抗体産生を特徴とする Th2 型のアレルギー反応が起こること、そしてこの反応が分子内に存在する糖鎖によって誘導されることを示唆した。この知見は、アスペルギルスによるアレルギーの病態解明に重要であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。